



年 組 名前

道新でワークシート

消防団員最少 80万人割れ 負担敬遠 高齢化進む

総務省消防庁は20日、2022年4月1日時点の消防団員数は前年比2万1299人減の78万3578人で、初めて80万人を割り込んだと発表した。負担の重さから「消防団離れ」が進んでおり、団員数は過去最少を更新。特に活動の中心を担う20代と30代の入団者が減っており、高齢化が深刻となっている。

新型コロナウイルスの影響で入退団の動きが低調だった前年の反動から、22年の退団者は5万4744人と大幅に増え、入団者は微減の3万3445人だった。

年代別では、21〜30歳の



入団者が1万727人と10年間で58・6%減り、31〜40歳も9125人と45・2%減少。団員に占める40歳以上の割合は60%を超えた。消防庁の担当者は「少子高齢化に加え、家庭や仕事で忙しい若者にとって消防団への加入はハードルが高くなっている」と分析する。

一方で消防庁は、消防団員が放水動作の速さなどを競う「操法大会」の見直しなどの負担軽減や、出勤報酬の引き上げを実施。特に女性や学生の勧誘に力を入れており、22年の女性団員は2万7603人、学生団員は5706人で、増加傾向が続いている。

消防団員は普段は別の仕事に就き、非常時は消火や救助にあたる非常勤の地方公務員。ピーク時の1952年には200万人超が所属していたが、年々減少している。

2022年12月22日（木）夕刊 全道版 7ページ（記事は再編集しています）

- ①「消防団員」とはどのような役割の人ですか。記事中の言葉を書き抜きましょう。
- ②記事中のグラフを見て、消防団員数は2000年から2022年までの間にどのように変化しているかを書きましょう。
- ③消防団が抱えている課題は何ですか。記事中から探してできるだけたくさん書きましょう。